



2020 年 1 月 23 日 (木) 17:00~18:30

先端酵素学研究所 B 棟 1 階 交流ホール

IL-33 とアレルギー

科学技術振興機構 JST さきがけ専任研究員
東京大学医科学研究所 特任研究員

中江 進 博士

物理的なダメージ（火傷や裂傷、病原体の侵入など）により、上皮細胞が破壊されたとき、破壊された細胞の中に恒常的に蓄えられている DAMP（damage-associated molecular pattern）と呼ばれる分子群が放出される。放出された DAMP は速やかに免疫細胞を動員し、炎症を惹起することにより、細胞の破壊の際に侵入した外来抗原の除去を行いつつ、破壊された上皮細胞の修復を促進する。喘息の発症は、最初に気道上皮などから抗原が体内に侵入することから始まる。通常、気道上皮細胞間のバリアにより、外来抗原の侵入が不可能な状況にあるが、何らかの要因によってバリアが破綻した場合、それが可能となる。その要因として、喘息の原因とされるダニやカビが産生するプロテアーゼがあげられる。しかしながら、プロテアーゼが気道上皮細胞を破壊し、バリア機能の破綻をもたらす際に起きる宿主側の免疫防御の機構及び病態への影響についてはほとんど明らかにされていなかった。本講演では、上皮細胞から放出される DAMP である interleukin-33 を中心に、プロテアーゼによって誘導される気道炎症に関わる炎症誘導因子の役割について紹介する。

本セミナーは、大学院特別講義（医科学・栄養生命科学・口腔科学教育部）を兼ねています。教職員、大学院生、学部学生等、興味を持つ全ての方のご来聴を歓迎致します。

お問合せ先：ゲノム制御学分野 片桐豊雅 内線 9478 tkatagi@genome.tokushima-u.ac.jp

主催：徳島大学先端酵素学研究所 共催：文部科学省共同利用・共同研究拠点事業